

小石川植物園の正門を入ると、すぐに正面が坂になっています。この坂は「小石川低地」と「白山段丘（白山舌状台地）の境目である「段丘崖（だんきゅうがい）」を登る坂です。小石川植物園は、ちょうど段丘崖を跨ぐように細長い敷地を持っています。

その坂の上り口の左側に、かなり立派な一塊の「ソテツ（蘇鉄）」があります。石垣島や与那国島では自生しているソテツをよく見かけます。しかし、関東のソテツのほとんどは、観賞用に植えられたものです。ここは東京大学の植物園ですから、研究用に植えられた植物の一つでしょう。ちょうど今の時期は、葉の中心部に「赤い実」がたくさんついているのが見られます。まるで、お皿に「ビワ」を盛ったように見えます。

実は（じつは）この実（み）のようなものは「実（果実）」ではなく、「種（種子）」なのです。ソテツは「裸子植物」なので、被子植物のような実（果実）はつくらず、いきなり種（種子）ができるのです。種子が「むき出し」なので「裸子」なのです。この種子にはでんぷんも含まれ、食用にもなるそうです。しかし「サイカシン」というアルカロイド系の毒や、「BMAA」という神経毒が含まれるので、かなり注意が必要です。そのまま食べると、嘔吐、腹痛、肝機能障害、神経障害などを引き起こすそうです。毒抜きもできるのですが、相当に手間がかかるので、私は食べたことはありません。

（2025 年 11 月上旬／小石川植物園）

